

秋田市内企業景況調査結果

(2020年1～3月期)

秋田商工会議所

＜内容＞

- ・ 全産業の項目別 D I 値
- ・ 産業別 D I 値
- ・ 設備投資
- ・ 経営上の問題点
- ・ 総括表

* 景気判断・D I 値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(▲：マイナス)

＜回収状況＞

業 種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	50	44 (88.0%)
製造業	50	41 (82.0%)
卸売業	50	37 (74.0%)

業 種	対象企業数	有効回答企業数
小売業	50	41 (82.0%)
サービス業	50	42 (84.0%)
合 計	250	205 (82.0%)

I. 全産業の項目別 D I 値

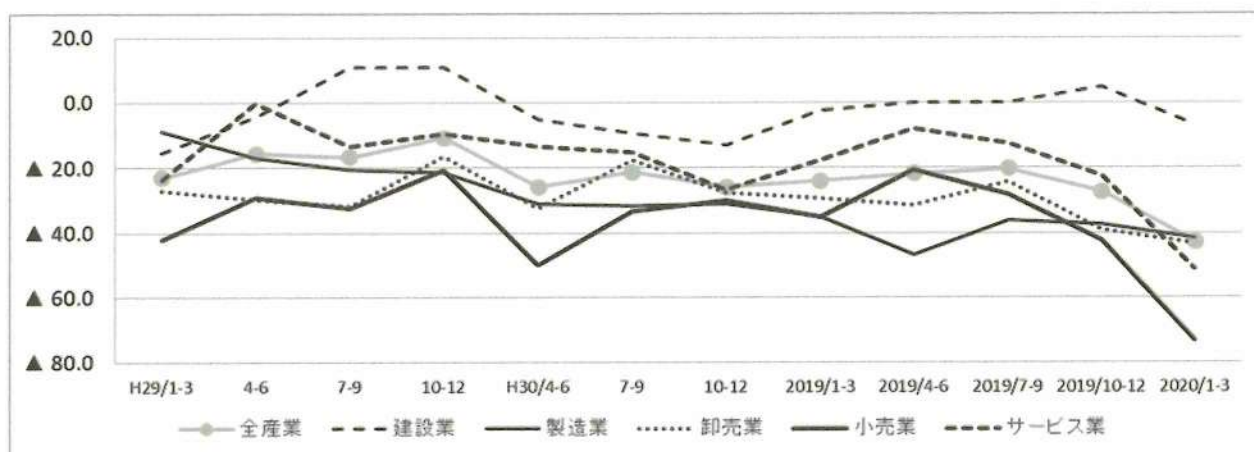
1. 業況

今期(1～3月前年同期比)の業況 D I 値は、全産業で▲42.8 と前期と比べ大幅に悪化した。産業別では、全業種で悪化した。特に小売業は▲73.1、サービス業は▲51.2、製造業は▲41.5 と東日本大震災直後(平成23年1～3月期・小売業▲46.9、サービス業▲50.0、製造業▲40.6) と比べ悪化した。

来期の見通し(4～6月)では、全産業で▲53.0 と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、建設業がマイナス33.5ポイントの大幅な悪化、サービス業、卸売業、製造業は悪化を見通している。一方、小売業は改善とは言え、▲65.0 と厳しい状況が続く見通しをしている。

	前期(10～12月)			今期(1～3月)		
		来期見通し(1～3月)		前期比	来期見通し(4～6月)	今期比
	(A)	(B)	(C)	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)
全 産 業	▲ 27.4	▲ 30.8	▲ 42.8	-15.4	▲ 53.0	-10.2
建 設 業	5.0	▲ 17.5	▲ 7.0	-12.0	▲ 40.5	-33.5
製 造 業	▲ 37.5	▲ 33.4	▲ 41.5	-4.0	▲ 48.7	-7.2
卸 売 業	▲ 39.0	▲ 30.9	▲ 43.3	-4.3	▲ 51.4	-8.1
小 売 業	▲ 42.5	▲ 48.8	▲ 73.1	-30.6	▲ 65.0	+8.1
サ ー ビ ス 業	▲ 22.5	▲ 23.1	▲ 51.2	-28.7	▲ 59.5	-8.3



2. 売上額・完成工事額

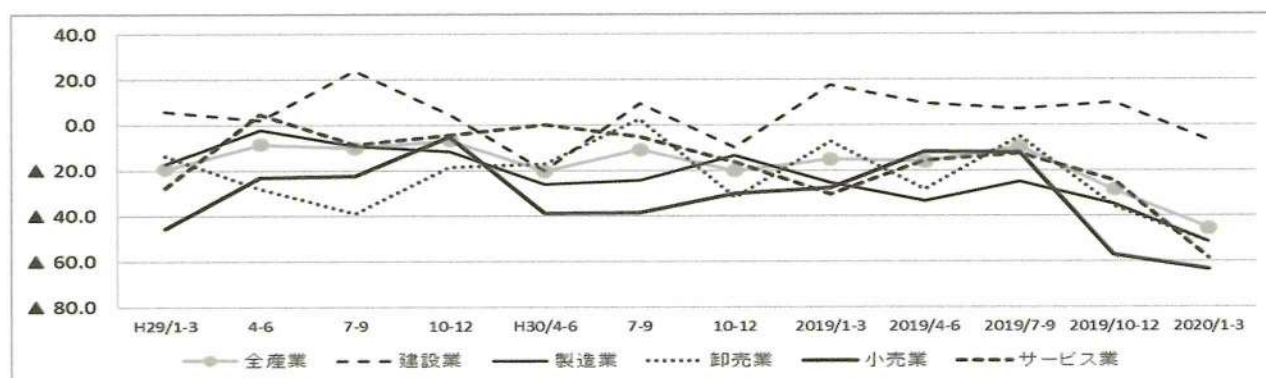
今期(1～3月前年同期比)の売上額・完成工事額のDI値は、全産業で▲45.6と前期と比べ大幅に悪化した。

産業別では、全業種で悪化した。特に小売業、製造業はそれぞれ▲63.4、▲51.2と東日本大震災直後(平成23年1～3月期・小売業▲45.4、製造業▲50.0)と比べ悪化した。

来期の見通し(4～6月)では、全産業で▲56.4と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、建設業がマイナス29.6ポイントと大幅な悪化を見通している。また、小売業、サービス業、卸売業、製造業は引き続き▲50.0を下回る厳しい見通しをしている。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月)	(C)	前期比	来期見通し(4～6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全産業	▲28.6	▲35.6	▲45.6	-17.0	▲56.4	-10.8
建設業	9.7	▲14.6	▲6.8	-16.5	▲36.4	-29.6
製造業	▲35.0	▲30.0	▲51.2	-16.2	▲53.7	-2.5
卸売業	▲35.7	▲38.1	▲51.4	-15.7	▲62.2	-10.8
小売業	▲57.1	▲63.4	▲63.4	-6.3	▲75.0	-11.6
サービス業	▲24.4	▲31.7	▲58.6	-34.2	▲57.2	+1.4



3. 資金繰り

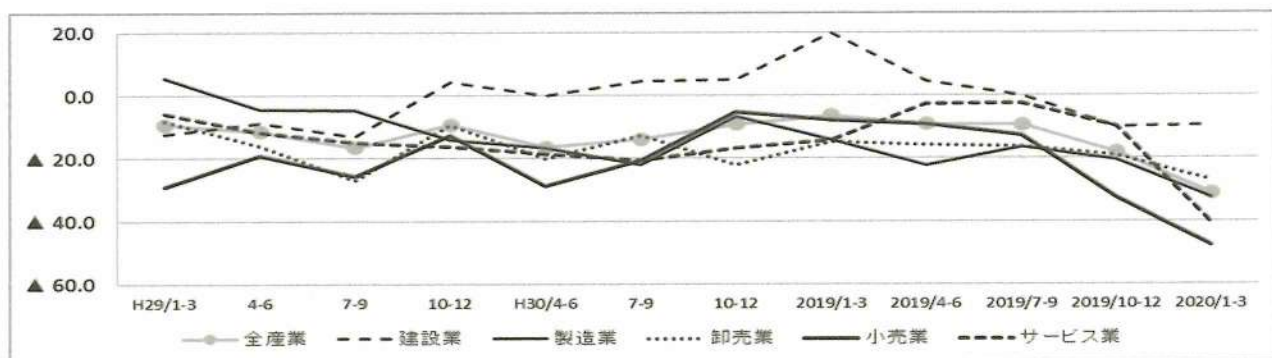
今期(1～3月前年同期比)の資金繰りのDI値は、全産業で▲31.2と前期と比べ悪化した。

産業別では、建設業が横ばい、他の4業種は悪化した。特にサービス業はマイナス30.7ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通し(4～6月)では、全産業で▲34.8と今期と比べわずかな悪化を見通している。

産業別では、卸売業、建設業、製造業は悪化を見通している。一方、サービス業、小売業は改善を見通している。

	前期(10~12月)		今期(1~3月)			
	(A)	来期見通し (1~3月)	(C)	前期比	来期見通し(4~6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全産業	▲ 18.2	▲ 22.6	▲ 31.2	-13.0	▲ 34.8	-3.6
建設業	▲ 9.8	▲ 19.5	▲ 9.3	+0.5	▲ 16.3	-7.0
製造業	▲ 20.5	▲ 25.0	▲ 32.5	-12.0	▲ 39.0	-6.5
卸売業	▲ 19.0	▲ 26.8	▲ 27.0	-8.0	▲ 37.8	-10.8
小売業	▲ 32.5	▲ 31.7	▲ 47.5	-15.0	▲ 46.4	+1.1
サービス業	▲ 9.8	▲ 9.7	▲ 40.5	-30.7	▲ 35.7	+4.8

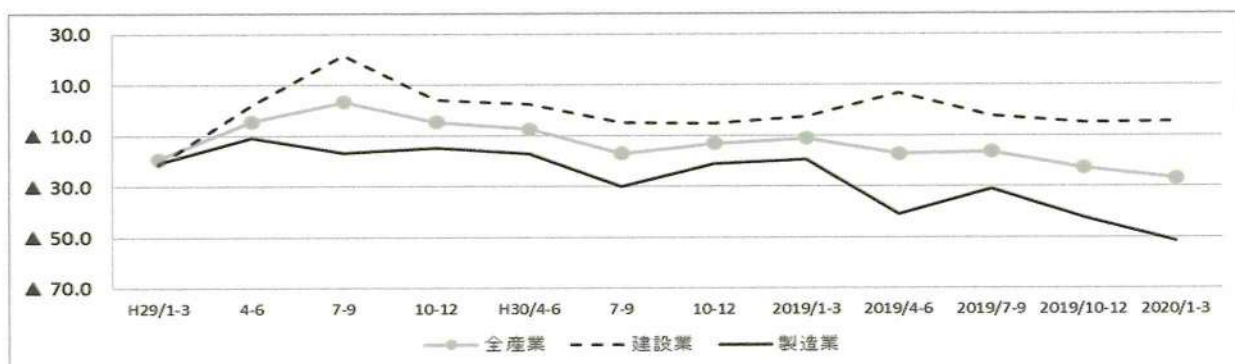


4. 受注残（未消化工事高）

今期(1~3月前年同期比)の受注残のDI値は、全産業で▲26.9と前期と比べ悪化した。産業別では、製造業は悪化し厳しい状況となった。建設業は横ばいとなった。

来期の見通し(4~6月)では、全産業で▲39.8と今期と比べ悪化を見通している。産業別では、建設業はマイナス25.6ポイントの大幅な悪化、製造業はわずかな改善を見通している。

	前期(10~12月)		今期(1~3月)			
	(A)	来期見通し (1~3月)	(C)	前期比	来期見通し(4~6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全産業	▲ 22.8	▲ 23.7	▲ 26.9	-4.1	▲ 39.8	-12.9
建設業	▲ 4.8	▲ 12.2	▲ 4.6	+0.2	▲ 30.2	-25.6
製造業	▲ 42.1	▲ 35.9	▲ 51.3	-9.2	▲ 50.0	+1.3



5. 採算（経常利益）

今期(1~3月前年同期比)の採算のDI値は、全産業で▲42.6と前期と比べ大幅に悪化した。

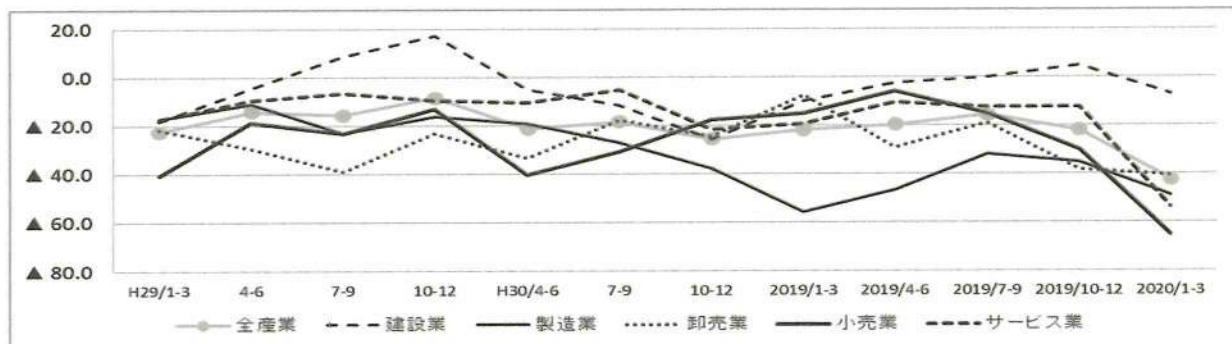
産業別では、全業種で悪化した。特に小売業は▲65.0、サービス業は▲53.7、製造業は▲48.7と東日本大震災直後（平成23年1-3月期・小売業▲50.0、サービス業▲48.6、製造業▲25.8）と比べ悪化した。

来期の見通し(4~6月)では、全産業で▲50.7と今期と比べ悪化を見通している。

産業別では、建設業がマイナス23.2ポイントの大幅な悪化、他の4業種も▲50.0を下

回る厳しい見通しをしている。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通し(4～6月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 22.1	▲ 28.3	▲ 42.6	-20.5	▲ 50.7	-8.1
建設業	5.0	▲ 7.3	▲ 7.0	-12.0	▲ 30.2	-23.2
製造業	▲ 35.0	▲ 32.5	▲ 48.7	-13.7	▲ 56.1	-7.4
卸売業	▲ 38.1	▲ 35.7	▲ 40.5	-2.4	▲ 51.4	-10.9
小売業	▲ 30.0	▲ 41.4	▲ 65.0	-35.0	▲ 59.0	+6.0
サービス業	▲ 12.2	▲ 24.4	▲ 53.7	-41.5	▲ 58.6	-4.9



6. 従業員（含む臨時）

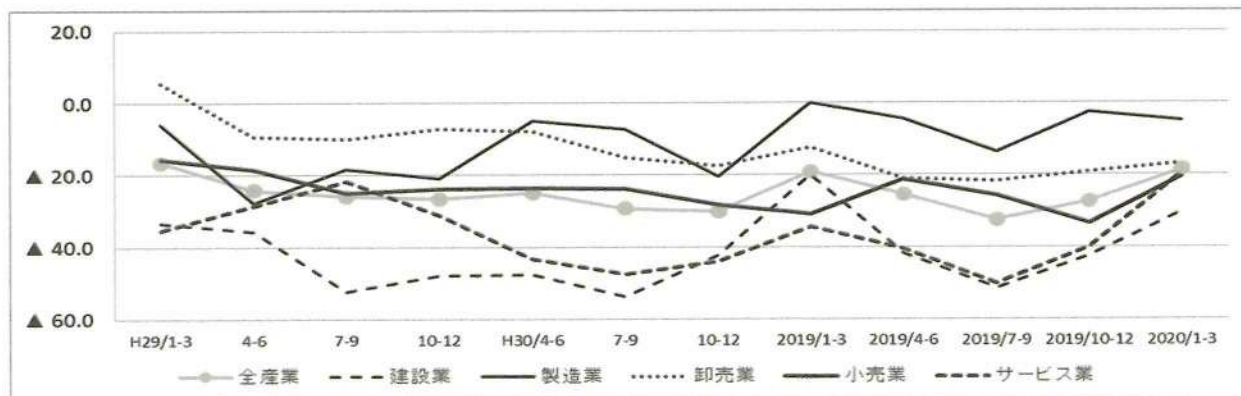
今期(1～3月前年同期比)の従業員のDI値は、全産業で▲18.5と前期と比べ不足感を縮小した。

産業別では、サービス業、小売業、建設業、卸売業で不足感を縮小した。特にサービス業はプラス20.5ポイントと大幅に不足感を縮小した。一方、製造業はわずかに不足感を拡大した。

来期の見通し(4～6月)では、全産業で▲17.0と今期と比べわずかな不足感の縮小を見通している。

産業別では、製造業が横ばい、サービス業、小売業は不足感の縮小を見通している。一方、卸売業、建設業は不足感の拡大を見通している。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通し(4～6月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 27.3	▲ 25.2	▲ 18.5	+8.8	▲ 17.0	+1.5
建設業	▲ 42.5	▲ 34.2	▲ 30.3	+12.2	▲ 32.5	-2.2
製造業	▲ 2.5	▲ 10.0	▲ 4.9	-2.4	▲ 4.9	0.0
卸売業	▲ 19.0	▲ 16.7	▲ 16.7	+2.3	▲ 19.4	-2.7
小売業	▲ 33.3	▲ 32.5	▲ 20.5	+12.8	▲ 17.9	+2.6
サービス業	▲ 40.0	▲ 32.5	▲ 19.5	+20.5	▲ 9.8	+9.7



Ⅱ. 産業別 D I 値

1. 建設業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲7.0 と前期のプラスからマイナスに転じた。

項目別では、資金繰り、受注残が横ばい、完成工事額、採算がプラス幅を縮小し、前期のプラスからマイナスへ転じた。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「新型コロナウイルスの影響で設備機器の納期の見通しが立たず、引き渡しがずれ込み、採算が悪化」(総合工事)とのコメントがある一方、「前年比で受注が多く、良い年だった。社員もケガなく、安全施工に従事できほっとしている」(設備工事)とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況が▲40.5 と今期と比べ、マイナス 33.5 ポイントと大幅に悪化する見通しをしている。

項目別では、全ての項目で悪化を見通している。特に完成工事額、受注残、採算はそれぞれマイナス 29.6 ポイント、マイナス 25.6 ポイント、マイナス 23.2 ポイントと大幅な悪化を見通している。従業員はわずかな不足感の拡大を見通している。

企業からは、「新型コロナウイルスの影響で資材の納入が遅れることによる完成工事額の減少を見込む」(設備工事)とのコメントがある一方、「大型工事の完成期となり、完成工事額は増加する見込である。採算面は不変を見込んでいる」(総合工事)とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通し(4～6月) (D)	今期比 (D)-(C)
業 況	5.0	▲ 17.5	▲ 7.0	-12.0	▲ 40.5	-33.5
完 成 工 事 額	9.7	▲ 14.6	▲ 6.8	-16.5	▲ 36.4	-29.6
資 金 繰 り	▲ 9.8	▲ 19.5	▲ 9.3	+0.5	▲ 16.3	-7.0
受 注 残	▲ 4.8	▲ 12.2	▲ 4.6	+0.2	▲ 30.2	-25.6
採 算(経常利益)	5.0	▲ 7.3	▲ 7.0	-12.0	▲ 30.2	-23.2
従業員(含む臨時)	▲ 42.5	▲ 34.2	▲ 30.3	+12.2	▲ 32.5	-2.2

2. 製造業

今期(1～3 月前年同期比)の項目別 D I 値は、業況が▲41.5 と前期と比べ悪化した。

項目別では、全ての項目で悪化した。特に受注残と売上額はともに▲50 を下回る厳しい状況となった。従業員はわずかに不足感を縮小した。

企業からは、「2 月中旬より新型コロナウイルスの影響のため、旅行者等の急減による土産品の減収と卒業式の縮小による引菓子等の減少等で大幅な減収(2 割程度)・減益となっている」(食料品)とのコメントがある一方、「概ね昨年同期と変わらない受注状況である。心配された新型コロナウイルスの影響も今のところ無い」(金属製品)とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6 月)では、業況は▲48.7 と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、採算、資金繰り、売上額で悪化を見通している。一方、受注残はわずかな改善を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「時差出勤やテレワークの活用、不要不急の出張の自粛、お花見の中止や規模縮小、歓送迎会が相次ぎキャンセルされるなど家庭外での飲食の機会は減少したままである」とのコメントがある一方、「スポット案件(受注額の大きいもの)と現在計画を進めている新事業により、好転の見通し」(印刷業)とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月)	(C)	前期比	来期見通し(4～6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 37.5	▲ 33.4	▲ 41.5	-4.0	▲ 48.7	-7.2
売 上 額	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 51.2	-16.2	▲ 53.7	-2.5
資 金 繰 り	▲ 20.5	▲ 25.0	▲ 32.5	-12.0	▲ 39.0	-6.5
受 注 残	▲ 42.1	▲ 35.9	▲ 51.3	-9.2	▲ 50.0	+1.3
採 算(経 常 利 益)	▲ 35.0	▲ 32.5	▲ 48.7	-13.7	▲ 56.1	-7.4
従 業 員(含 む 臨 時)	▲ 2.5	▲ 10.0	▲ 4.9	-2.4	▲ 4.9	0.0

3. 卸売業

今期(1～3月前年同期比)の項目別D I 値は、業況が▲43.3 と前期と比べ悪化した。

項目別では、売上額、資金繰り、採算で悪化した。特に売上額はマイナス 15.7 ポイントと大幅に悪化した。従業員はわずかに不足感を縮小した。

企業からは、「新型コロナウイルスのため、飲食店、宿泊施設、給食等の納品が減少」(食料品)とのコメントがある一方、「パソコンの Windows 7 から 10 への切り替えが3月末まで続いた結果、前年同期比で売上が120.27%、経常利益が117.43%となった(一般・事務機器等)とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)では、業況が▲51.4 と今期と比べ悪化を見通している。

項目別では、採算、売上額、資金繰りで悪化を見通している。従業員は不足感のわずかな拡大を見通している。

企業からは、「引き続き新型コロナウイルスの影響で未曾有の売上減を見込む」(物産)とのコメントがある一方、「新型コロナウイルスが終息し、子供たちが動き回ることでお菓子の購買を期待したい」(雑貨)とのコメントがあった。

	前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通し (1～3月)	(C)	前期比	来期見通し(4～6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 39.0	▲ 30.9	▲ 43.3	-4.3	▲ 51.4	-8.1
売 上 額	▲ 35.7	▲ 38.1	▲ 51.4	-15.7	▲ 62.2	-10.8
資 金 繰 り	▲ 19.0	▲ 26.8	▲ 27.0	-8.0	▲ 37.8	-10.8
採 算(経 常 利 益)	▲ 38.1	▲ 35.7	▲ 40.5	-2.4	▲ 51.4	-10.9
従 業 員(含 む 臨 時)	▲ 19.0	▲ 16.7	▲ 16.7	+2.3	▲ 19.4	-2.7

4. 小売業

今期(1～3月前年同期比)の項目別D I 値は、業況がマイナス 30.6 ポイントの▲73.1 と東日本大震災直後(平成23年1-3月期・小売業▲46.9)と比べ悪化した。

項目別では、採算、資金繰り、売上額で悪化した。特に採算はマイナス 35.0 ポイントと大幅に悪化した。従業員は不足感を大幅に縮小した。

企業からは、「新型コロナウイルスの影響で土日のスポーツ少年団関係、会議の弁当等すべてなくなり、前年比の半分以下になった」(身の回り品)とのコメントがある一方、「売上高は新店効果により増加。また、2月下旬の新型コロナウイルスの影響により一時的と思われるが増加品目があった。資金繰りはキャッシュレス増加により悪化している」(食料品)とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)では、業況が▲65.0 と今期と比べ改善を見通している。

項目別では、採算、資金繰りで改善を見通している。一方、売上額は悪化し、▲75.0 と厳しい状況を見通している。従業員はわずかな不足感の縮小を見通している。

企業からは、「新型コロナウイルスの影響で売上は若干増加しているものの、自社に感染者が出た場合、休業等余儀なくされる可能性もあり、危惧している」(食料品)とのコメントがある一方、「自動車の登録台数及び販売数減少と新型コロナウイルスの影響により、売上額減少を見込む」(自動車用品)とのコメントがあった。

	前 期 (10~12月)		今 期 (1~3月)			
	(A)	来期見通し (1~3月)	(C)	前期比	来期見通し (4~6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 42.5	▲ 48.8	▲ 73.1	-30.6	▲ 65.0	+8.1
売 上 額	▲ 57.1	▲ 63.4	▲ 63.4	-6.3	▲ 75.0	-11.6
資 金 繰 り	▲ 32.5	▲ 31.7	▲ 47.5	-15.0	▲ 46.4	+1.1
採 算 (経 常 利 益)	▲ 30.0	▲ 41.4	▲ 65.0	-35.0	▲ 59.0	+6.0
従業員 (含む臨時)	▲ 33.3	▲ 32.5	▲ 20.5	+12.8	▲ 17.9	+2.6

5. サービス業

今期(1~3月前年同期比)の項目別D I 値は、業況が▲51.2 と前期と比べ大幅に悪化し、厳しい状況となった。

項目別では、採算、売上額、資金繰りがそれぞれそれぞれマイナス 41.5 ポイント、マイナス 34.2 ポイント、マイナス 30.7 ポイントと大幅に悪化した。従業員は大幅に不足感を縮小した。

企業からは、「年初は好天続きで良いスタートを切り、国内貨物も順調だったが、1 月後半から中国国内での新型コロナウイルスの感染が拡大したため、物資が停滞し始め、2 月、さらに3 月は大幅な売上減少となった」(運輸業)とのコメントがある一方、「人手不足にフォローができた。新型コロナウイルスの影響は大きくはない」(専門サービス)とのコメントがあった。

来期の見通し(4~6月)では、業況が▲59.5 と今期と比べ悪化の見通しをしている。

項目別では、採算で悪化を見通す一方、資金繰り、売上額で改善を見通している。従業員は不足感の縮小を見通している。

企業からは、「国内の新型コロナウイルスの影響により各企業とも先行きを見通せない状況である。既に4 月以降、減産を始めた企業もあり、今後さらに収益が悪化すると見込んでいる」(運輸業)、「新型コロナウイルスの影響でサプライチェーン(保守部品やサービス機器)が滞った場合、売上減少の可能性あり」(情報サービス)とのコメントがあった。

	前 期 (10~12月)		今 期 (1~3月)			
	(A)	来期見通し (1~3月)	(C)	前期比	来期見通し (4~6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業 況	▲ 22.5	▲ 23.1	▲ 51.2	-28.7	▲ 59.5	-8.3
売 上 額	▲ 24.4	▲ 31.7	▲ 58.6	-34.2	▲ 57.2	+1.4
資 金 繰 り	▲ 9.8	▲ 9.7	▲ 40.5	-30.7	▲ 35.7	+4.8
採 算 (経 常 利 益)	▲ 12.2	▲ 24.4	▲ 53.7	-41.5	▲ 58.6	-4.9
従業員 (含む臨時)	▲ 40.0	▲ 32.5	▲ 19.5	+20.5	▲ 9.8	+9.7

Ⅲ. 設備投資

全産業における今期(1～3月)の設備投資について、「実施した」とする企業は68件となり、前期と比べ12件減少した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業(19件)、次いでサービス業(18件)、製造業(15件)の順となっている。

今期に「実施した」企業の設備内容で最も多かったのは、「OA機器」(23件)、次いで、「車両・運搬具」(20件)、「建物・工場・店舗」「機械・設備・倉庫」(ともに13件)の順となっている。

来期の計画では、全産業で「計画している」としたのは59件で、今期と比べ9件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、製造業(17件)、次いでサービス業(12件)、建設業、小売業(ともに11件)の順となっている。

来期に「計画している」企業の設備内容については、「車両・運搬具」(21件)、「機械・設備・倉庫」(16件)、「OA機器」(13件)の順となっている。

設備投資状況

(▲印：減、件数)

	前 期 (10～12月)				今 期 (1～3月)					
	実施した (A)	実施しない	来期の計画		実施した (C)	実施しない	前期比 (※) (C-A)	来期の計画		
			計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
全産業	80	126	60	146	68	137	▲ 12	59	146	▲ 9
建設業	23	18	12	29	19	25	▲ 4	11	33	▲ 8
製造業	15	25	15	25	15	26	0	17	24	2
卸売業	9	33	9	33	8	29	▲ 1	8	29	0
小売業	16	26	8	34	8	33	▲ 8	11	30	3
サービス業	17	24	16	25	18	24	1	12	30	▲ 6

設備内容(複数回答)

(件数)

	全 産 業		建 設 業		製 造 業		卸 売 業		小 売 業		サービ業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
① 土地	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
② 建物・工場・店舗	13	7	3	0	4	1	0	1	2	5	4	0
③ 機械・設備・倉庫	13	16	0	2	9	11	0	0	0	1	4	2
④ 車両・運搬具	20	21	6	6	1	5	2	2	4	4	7	4
⑤ 付帯施設	8	11	1	2	0	2	2	4	1	0	4	3
⑥ OA 機器	23	13	10	3	2	1	4	3	4	3	3	3
⑦ 福利厚生施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑧ その他	3	2	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0
合 計	82	71	21	13	18	22	8	10	12	13	23	13

IV. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、製造業、卸売業、小売業、サービス業で「需要の停滞」を第1位に挙げている。建設業は「従業員の確保難」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業で「民間需要の停滞」「官公需要の停滞」「人件費の増加」、製造業で「人件費の増加」「生産設備の不足・老朽化」「原材料費・人件費以外の経費の増加」、卸売業で「販売価格の低下・上昇難」「仕入単価の上昇」、小売業で「販売単価の低下・上昇難」「消費者ニーズの変化への対応」、サービス業で「従業員の確保難」「店舗施設の狭隘・老朽化」を問題点として挙げており、需要の停滞による売上の伸び悩みに加え、従業員の確保難、人件費の増加、販売単価の低下・上昇難、生産設備の不足・老朽化、消費者ニーズの変化への対応、仕入単価の上昇が経営課題となっていることが窺える。

	1 位		2 位		3 位	
建設業	従業員の確保難		民間需要の停滞		官公需要の停滞 人件費の増加	
	18.6%	8 件	38.9%	14 件	17.2%	5 件
製造業	需要の停滞		人件費の増加		生産設備の不足・老朽化 原材料費・人件費以外の経費の増加	
	44.7%	17 件	19.4%	7 件	15.6%	5 件
卸売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇	
	52.9%	18 件	32.1%	9 件	17.4%	4 件
小売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		消費者ニーズの変化への対応	
	43.2%	16 件	18.8%	6 件	17.9%	5 件
サービス業	需要の停滞		従業員の確保難		従業員の確保難 店舗施設の狭隘・老朽化	
	34.1%	14 件	18.9%	7 件	14.3%	4 件

* %は1位、2位、3位それぞれの回答数（＝100%）の割合を示したものの。

参考：1～3位を累計した場合

	1 位		2 位		3 位	
建設業	民間需要の停滞		熟練技術者の確保難		官公需要の停滞	
	17.6%	19 件	16.7%	18 件	13.0%	14 件
製造業	需要の停滞		生産設備の不足・老朽化		製品ニーズの変化への対応	
	20.8%	22 件	15.1%	16 件	11.3%	12 件
卸売業	需要の停滞		販売単価の低下・上昇難		従業員の確保難	
	29.4%	25 件	21.2%	18 件	11.8%	10 件
小売業	需要の停滞		消費者ニーズの変化への対応		販売単価の低下・上昇難	
	23.7%	23 件	11.3%	11 件	10.3%	10 件
サービス業	需要の停滞		従業員の確保難		利用者ニーズの変化への対応	
	20.8%	22 件	17.9%	19 件	9.4%	10 件

* %は1位から3位までの総回答数（＝100%）の割合を示したものの。

【付帯調査】

◎新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する調査

V. 3月16日～27日時点及び今後の業務への影響（複数回答可）

- ・業務への影響について聞いたところ、回答のあった200件中、②「今後に大きなマイナスの影響が見込まれる」が59件29.5%、次いで④「今後に小さなマイナスの影響が見込まれる」の46件23.0%、①「既に大きなマイナスの影響が出ている」の44件22.0%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比(%)
①既に大きなマイナスの影響が出ている	44	22.0
②今後に大きなマイナスの影響が見込まれる	59	29.5
③既に小さなマイナスの影響が出ている	36	18.0
④今後に小さなマイナスの影響が見込まれる	46	23.0
⑤影響はない。今後も影響は見込まれない	15	7.5
合 計	200	100.0

VI. 具体的な影響について（複数回答可）

- ・具体的な影響について聞いたところ、回答のあった481件中、③「製品・商品・サービスなどの売上の減少」が110件22.9%、次いで①「従業員の労務・健康管理における不安や心配」の67件13.9%、②「イベント・会合等の中止・延期・縮小」の63件13.1%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比(%)
①従業員の労務・健康管理における不安や心配	67	13.9
②イベント・会合等の中止・延期・縮小	63	13.1
③製品・商品・サービスなどの売上の減少	110	22.9
④日本国内における取引や商談、往来の減少	42	8.7
⑤感染予防対策費用の増加	25	5.2
⑥サプライチェーン物流の停滞	36	7.5
⑦予約キャンセルの増加	25	5.2
⑧資金繰りの悪化	40	8.3
⑨日本国内における生産の減少	21	4.4
⑩設備投資の中止や延期、縮小	24	5.0
⑪中国との取引や商談、往来の減少	10	2.1
⑫中国以外の海外取引や商談、往来の減少	5	1.0
⑬その他	13	2.7
合 計	481	100.0

○その他のコメント

- ・建設業
 - ・商品の受注停止と出荷停止（総合工事）

- ・住宅設備で供給ができない品物が出ている（中国生産部品）（総合工事）
- ・消耗品が不足しても入荷しない（総合工事）
- ・会社で保有している投資有価証券の評価額が大幅に減少している（総合工事）
- ・不動産物件の買い渋りによる物件の停滞（職別工事）
- ・民間企業の利益の減少に伴う発注減（職別工事）
- ・病院や福祉施設への出入り規制での仕事の遅延（設備工事）
- ・請負件数の減少（設備工事）
- ・卸売業
 - ・①商品の欠品②顧客の倒産・廃業に伴う売上減や売掛金未回収の不安（一般・事務機器）
 - ・施設内部への出入禁止のため、保守メンテナンスができない（一般・事務機器）
 - ・原料不足（医薬品）
- ・小売業
 - ・学校、部活動・クラブ活動停止の影響（スポーツ用品）
- ・サービス業
 - ・採用活動に大きな影響が出ている（合同説明会の中止等）（情報サービス）

VII. 具体的な対策について（複数回答可）

- ・具体的な対策について聞いたところ、回答のあった361件中、②「マスク、消毒液等の備蓄」が78件21.6%、次いで①「従業員への注意喚起・対応マニュアルの作成」の73件20.2%、③「出張の見合わせ」の58件16.1%の順となった。なお、⑭「対策なし・対策は行わない」も20件5.5%あった。

選 択 肢	件数	構成比(%)
①従業員への注意喚起・対応マニュアルの作成	73	20.2
②マスク、消毒液等の備蓄	78	21.6
③出張の見合わせ	58	16.1
④生産・販売計画の見直し	46	12.7
⑤当面の事業資金調達	40	11.1
⑥在宅勤務の導入（テレワーク等）	6	1.7
⑦時差出勤の導入	5	1.3
⑧代替調達先の確保	22	6.1
⑨電子商取引の導入	2	0.6
⑩物流ルートの変更	9	2.5
⑪海外との取引や商談、往来を国内に変更	0	0.0
⑫中国以外の国との取引や商談、往来を強化	0	0.0
⑬その他	2	0.6
⑭対策なし・対策は行わない	20	5.5
合 計	361	100.0

○その他のコメント

・建設業

- ・毎朝の検温シートによる体調管理・報告（37.5℃以上は出勤停止）（総合工事）

・小売業

- ・仕入の調整（飲料品）

Ⅷ. 困っていること、支援機関への要望

・建設業

- ・受注産業であるが、今後の新型コロナウイルスの動向が見通せない。細心の注意を払って冷静に見極めたいと思っている（総合工事）
- ・従業員の健康管理が一番だが、マスクや消毒液が足りない状態なので不安のないようにお願いする（総合工事）
- ・マスク、消毒液等の入手難（総合工事）
- ・社員が新型コロナウイルスにかかった場合が一番心配（作業ができなくなり、売上も減少するから）（設備工事）
- ・支援機関に頼ることは思いつかない（設備工事）
- ・マスクの納品（設備工事）

・製造業

- ・当社は飲食関連、イベント等の得意先が大部分である。新型コロナウイルスの終息が長引き、夏期の最需要期を迎える状況になれば事業そのものを考え直さなければならないので、各種情報等を提供してもらいたい（食料品）
- ・今後予定されている即売会（未定）の出店経費の助成など売上回復に向けた支援をお願いしたい（食料品）
- ・制度資金の利用条件をもっと緩和し、幅広い対応をお願いしたい（食料品）
- ・新型コロナウイルスの汚染の少ない（もしくはない）地域は、汚染区域とは別の対処ができるようにすべきと思う（柔軟な対応があってもよいと思う）（水産物）
- ・マスク、消毒液の手配（印刷業）
- ・マスクの供給（印刷業）
- ・今後売上減少が見込まれるため、このような時に価格競争にならないよう指導を願う（印刷業）
- ・支援機関への要望なし。国が早く終息方向を打ち出すこと。各種の支援策を考えるより終息宣言をすれば、すべて解決する…待つしかないが、4月中旬までは打ち出すこと（金属製品）
- ・マスク、消毒液が手に入らず困っている（金属製品）
- ・中小企業の一社として、マスク、消毒液等には特に気をつけて備蓄割れのないようにしたい（ゴム製品）

・卸売業

- ・新型コロナウイルスの影響で移動販売先の販売許可が出ない（衣料）
- ・資金繰りが大変。手厚い支援を望む（食料品）
- ・早急な無利子の融資制度の実施（物産）
- ・新型コロナウイルスの影響のため、道の駅や温泉施設の利用客の減少で売上が期待できず厳しい状況。早い終息を願う（雑貨）
- ・今の段階で売上が落ちている。また、量販店の工事をしている業者は一週間に1、2件程度しか依頼が来ないとのこと。当然私のところの商品はダウンである（家電）

・小売業

- ・①家賃負担が厳しい（テナント料の見送りや見直しが必要）②借入金の支払いが厳しい（新型コロナウイルスの影響が続くなら据え置き等対策が必要）（身の回り品）
- ・2、3か月後にはこのままだと運転資金に支障をきたすだろう。思い切った景気対策と言っているが、スピードが大事で体力のない中小企業はあつという間につぶれるだろう。これを機にやめる会社は増えるだろう（時計）
- ・①長期化することによる資金面での不安②売上低迷による設備投資の可否判断（カバン）

- ・販売層は比較的年配者が多く占め、新型コロナウイルスの影響で外出を控えている様子。年金生活者には10%の消費税アップも消費を縮小させていると思う。GPDがプラスに向かう要因は全く見当たらない（飲料品）
- ・①新型コロナウイルス対策の助成・補助②融資などの各種情報（飲料品）
- ・食品衛生上も「マスク」「消毒液」が不足しており、苦慮している（食料品）
- ・従業員にマスク等配布したいが、仕入の目途が立たない（自動車用品）
- ・外出が少なくなり、来店客数が減少している（自動車用品）
- ・マスクがない（化粧品）
- ・期間を決めて（1～2年くらい）消費税を0%にして、消費を促す（生花）
- ・サービス業
 - ・固定資産税、事業所税の軽減（宴会場）
 - ・観光産業であり、新型コロナウイルスの影響は甚大である。山形県などは県の負担で旅行クーポンを発行するなど消費を促している、秋田県も何か大胆な策を打っていないと他県に遅れをとり、需要回復が遅れることが危惧される。オール秋田で難局を乗り切る政策を行なってほしい（旅館）
 - ・マスク、消毒液を備蓄したくても売っていない（情報サービス）
 - ・消毒液等店舗用アルコールが入手できない（専門サービス）
 - ・事務的な業務はある程度テレワークに切り替え可能でも現場作業は、人が直接その場で行わなければならない、もし、当社現業社員に新型コロナウイルスの感染が認められた場合、本人のみならず他の社員が濃厚接触者として隔離されると業務遂行に大きな影響が出ることは明白である（運輸業）
 - ・マスクの調達が困難である（運輸業）
 - ・3月は12月に次いで売上額が多い月であるが、新型コロナウイルスの影響で予約が入らず、入った予約もキャンセルとなっている。資金調達をスムーズにスピード感を持って実行してほしい（飲食店等）

秋田市内企業景況調査
全産業別景気判断比較表(DI値)
(第4半期:2020年1月~3月)

(▲マイナス)

	受注残（未消化工事高）						採算（経常利益）						従業員（含む臨時）						
	前期(10～12月)			今期(1～3月)			前期(10～12月)			今期(1～3月)			前期(10～12月)			今期(1～3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月)	(B)	(G)	(C)-(A)	(D)	来期見通(4～6月)	(D)-(C)	今期比	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)	今期比	(C)-(A)	(D)	(D)-(C)	今期比		
全産業	▲ 22.8	▲ 23.7		▲ 26.9	-4.1	▲ 39.8	-12.9	▲ 22.1	▲ 28.3	▲ 42.6	-20.5	▲ 50.7	-8.1	▲ 27.3	▲ 25.2	▲ 18.5	+8.8	▲ 17.0	+1.5
建設業	▲ 4.8	▲ 12.2		▲ 4.6	+0.2	▲ 30.2	-25.6	5.0	▲ 7.3	▲ 7.0	-12.0	▲ 30.2	-23.2	▲ 42.5	▲ 34.2	▲ 30.3	+12.2	▲ 32.5	-2.2
製造業	▲ 42.1	▲ 35.9		▲ 51.3	-9.2	▲ 50.0	+1.3	▲ 35.0	▲ 32.5	▲ 48.7	-13.7	▲ 56.1	-7.4	▲ 2.5	▲ 10.0	▲ 4.9	-2.4	▲ 4.9	0.0
卸売業	—	—		—	—	—	—	▲ 38.1	▲ 35.7	▲ 40.5	-2.4	▲ 51.4	-10.9	▲ 19.0	▲ 16.7	▲ 16.7	+2.3	▲ 19.4	-2.7
小売業	—	—		—	—	—	—	▲ 30.0	▲ 41.4	▲ 65.0	-35.0	▲ 59.0	+6.0	▲ 33.3	▲ 32.5	▲ 20.5	+12.8	▲ 17.9	+2.6
サービス業	—	—		—	—	—	—	▲ 12.2	▲ 24.4	▲ 53.7	-41.5	▲ 58.6	-4.9	▲ 40.0	▲ 32.5	▲ 19.5	+20.5	▲ 9.8	+9.7

第1四半期	4月～6月期
第2四半期	7月～9月期
第3四半期	10月～12月期
第4四半期	1月～3月期

秋田市内企業景況調査結果(業種別比較表)
(第4四半期:2020年1月~3月)

1. 今期の状況

業種	項目	業況			売上額・完成工事額			資金繰り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	19	78	108	30	51	123	3	133	66	12	36	34	18	80	104	17	129	54
	%	9.4	38.4	52.2	14.7	25.0	60.3	1.5	65.8	32.7	14.6	43.9	41.5	8.9	39.6	51.5	8.5	64.5	27.0
	DI	▲ 42.8			▲ 45.6			▲ 31.2			▲ 26.9			▲ 42.6			▲ 18.5		
建設業	実数	7	26	10	12	17	15	3	33	7	10	21	12	9	22	12	1	28	14
	%	16.3	60.5	23.3	27.3	38.6	34.1	7.0	76.7	16.3	23.3	48.8	27.9	20.9	51.2	27.9	2.3	65.1	32.6
	DI	▲ 7.0			▲ 6.8			▲ 9.3			▲ 4.6			▲ 7.0			▲ 30.3		
製造業	実数	5	14	22	5	10	26	0	27	13	2	15	22	4	13	24	6	27	8
	%	12.2	34.1	53.7	12.2	24.4	63.4	0.0	67.5	32.5	5.1	38.5	56.4	9.8	31.7	58.5	14.6	65.9	19.5
	DI	▲ 41.5			▲ 51.2			▲ 32.5			▲ 51.3			▲ 48.7			▲ 4.9		
卸売業	実数	3	15	19	5	8	24	0	27	10				3	16	18	0	30	6
	%	8.1	40.5	51.4	13.5	21.6	64.9	0.0	73.0	27.0				8.1	43.2	48.6	0.0	83.3	16.7
	DI	▲ 43.3			▲ 51.4			▲ 27.0			▲ 40.5			▲ 16.7			▲ 16.7		
小売業	実数	2	7	32	5	5	31	0	21	19				1	12	27	4	23	12
	%	4.9	17.1	78.0	12.2	12.2	75.6	0.0	52.5	47.5				2.5	30.0	67.5	10.3	59.0	30.8
	DI	▲ 73.1			▲ 63.4			▲ 47.5			▲ 65.0			▲ 20.5			▲ 20.5		
サービス業	実数	2	16	23	3	11	27	0	25	17				1	17	23	6	21	14
	%	4.9	39.0	56.1	7.3	26.8	65.9	0.0	59.5	40.5				2.4	41.5	56.1	14.6	51.2	34.1
	DI	▲ 51.2			▲ 58.6			▲ 40.5			▲ 53.7			▲ 19.5			▲ 19.5		

※DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。(H29. 4月より)

秋田市内企業景況調査結果（業種別比較表）
（第4四半期：2020年1月～3月）

2. 来期の見通し

業 種	項 目	業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)									
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足							
全産業	実数	7	80	113	17	55	132	4	125	75	8	34	41	9	81	111	19	128	53							
	%	3.5	40.0	56.5	8.3	27.0	64.7	2.0	61.3	36.8	9.6	41.0	49.4	4.5	40.3	55.2	9.5	64.0	26.5							
	DI	▲ 53.0			▲ 56.4			▲ 34.8			▲ 39.8			▲ 50.7			▲ 17.0									
建設業	実数	1	23	18	4	20	20	0	36	7	6	18	19	2	26	15	2	25	16							
	%	2.4	54.8	42.9	9.1	45.5	45.5	0.0	83.7	16.3	14.0	41.9	44.2	4.7	60.5	34.9	4.7	58.1	37.2							
	DI	▲ 40.5			▲ 36.4			▲ 16.3			▲ 30.2			▲ 30.2			▲ 32.5									
製造業	実数	2	16	21	5	9	27	2	21	18	2	16	22	3	12	26	5	29	7							
	%	5.1	41.0	53.8	12.2	22.0	65.9	4.9	51.2	43.9	5.0	40.0	55.0	7.3	29.3	63.4	12.2	70.7	17.1							
	DI	▲ 48.7			▲ 53.7			▲ 39.0			▲ 50.0			▲ 56.1			▲ 4.9									
卸売業	実数	0	18	19	1	12	24	0	23	14											0	18	19	1	27	8
	%	0.0	48.6	51.4	2.7	32.4	64.9	0.0	62.2	37.8											0.0	48.6	51.4	2.8	75.0	22.2
	DI	▲ 51.4			▲ 62.2			▲ 37.8													▲ 51.4			▲ 19.4		
小売業	実数	2	10	28	3	4	33	1	20	20											3	10	26	3	26	10
	%	5.0	25.0	70.0	7.5	10.0	82.5	2.4	48.8	48.8											7.7	25.6	66.7	7.7	66.7	25.6
	DI	▲ 65.0			▲ 75.0			▲ 46.4													▲ 59.0			▲ 17.9		
サービス業	実数	2	13	27	4	10	28	1	25	16											1	15	25	8	21	12
	%	4.8	31.0	64.3	9.5	23.8	66.7	2.4	59.5	38.1											2.4	36.6	61.0	19.5	51.2	29.3
	DI	▲ 59.5			▲ 57.2			▲ 35.7													▲ 58.6			▲ 9.8		

※DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。（H29. 4月より）

参 考

市内景況調査に対する各企業のコメント

I 今期の特徴（2020 年 1-3 月）

1 建設業

- ・ 工事が大型化していること、雪が少ないため工事が順調に進行した（総合工事）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で設備機器の納期の見通しが立たず、引き渡しがずれ込み、採算が悪化（総合工事）
- ・ 公共、民間ともに動きが悪い（総合工事）
- ・ 前年に比べ利益率が向上している（総合工事）
- ・ 大型工事の完成期のため完成工事額が増加した。採算面は改善傾向にある（総合工事）
- ・ 大型工事が多いため、3月期の完成工事となるものが少ない（総合工事）
- ・ 今期は増収増益の見込（職別工事）
- ・ 今期は未成工事がなく、採算の取れる工事はなかった（職別工事）
- ・ 前期の未成が多かったため、完成工事額が増加（職別工事）
- ・ 暖冬により工事が順調に進捗した（職別工事）
- ・ 前年比で受注が多く、良い年だった。社員もケガなく、安全施工に従事できほっとしている（設備工事）
- ・ 例年に比べ2、3月に売上が急に伸びた（設備工事）
- ・ 持越し工事の完工があるものの、完成工事額は昨年より減少（設備工事）
- ・ 前年からの繰越の竣工が前年同期とほぼ同額であった（設備工事）

2 製造業

- ・ 消費税増税と記録的な暖冬により需要が減少したことに加え、新型コロナウイルスの影響で飲食店から客足が遠のき、業務用市場が大きく落ち込んでいる（飲料品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響による学校給食の停止、外食向けの食材の低迷等でこの件が終息するまでは景気は好転しないと思う（水産物）
- ・ 2月上旬、新型コロナウイルス感染拡大の頃から飲食店関係の売上が減少し始め、県内の感染者報告日から川反、大町、山王の人出が止まった（食料品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響でキャンセル等が続き、大幅な売上減少。資金繰りに多大な影響がある（食料品）
- ・ 2月中旬より新型コロナウイルスの影響のため、旅行者等の急減による土産品の減収と卒業式の縮小による引菓子等の減少等で大幅な減収（2割程度）・減益となっている（食料品）
- ・ 前年の反動に加えて新型コロナウイルスの影響で3月に受注減が出始めている（印刷業）
- ・ 2月から3月にかけて新型コロナウイルスの影響により、イベント等の自粛が印刷業にも影響を及ぼしており、売上の落ち込みが見られた（印刷業）
- ・ 消費税増税による停滞感が強い（金属製品）
- ・ 概ね昨年同期と変わらない受注状況である。心配された新型コロナウイルスの影響も今のところ無い（金属製品）

3 卸売業

- ・ 新型コロナウイルスのため、飲食店、宿泊施設、給食等の納品が減少（食料品）
- ・ ホテル、業務店向け高級食材の売上減少。量販店向けの売上は不変（水産物）
- ・ 新型コロナウイルスの影響により顧客の売上が急落している（一般・事務機器等）
- ・ パソコンの Windows 7 から 10 への切り替えが3月末まで続いた結果、前年同期比で売上が120.27%、経常利益が117.43%となった（一般・事務機器等）
- ・ 特殊案件（官公庁等）の減少による売上減少（燃料）
- ・ 暖冬少雪によりスキー場の売上の売上が最悪。自然には勝てない（雑貨）
- ・ 新型コロナウイルスの影響により観光客が激減し、売上大幅減（物産）
- ・ 営業所によりバラつきはあるものの、昨年と比較して概ね好調に推移している（建設資材）

4 小 売 業

- ・ 1、2月はまずまず。3月になってから新型コロナウイルスの影響が大きく、来店客が半分になり、回復の様子が全く見えない（時計）
- ・ 今期は売上減少だが、学校や部活動が通常通りになれば売上が上昇する（スポーツ用品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で土日のスポーツ少年団関係、会議の弁当等すべてなくなり、前年比の半以下になった（身の回り品）
- ・ 予想外の雪不足に加え、新型コロナウイルスの影響で売上が大きく減少した（身の回り品）
- ・ キャッシュレスの割合が増え、現金売上の30%を占めてきた（身の回り品）
- ・ 3月の売上は前年比でマイナス50~60%（カバン）
- ・ 昨年10月よりテナントのある百貨店の来客が随分落ちた。今年の初売も良くなかった。消費税率の変更が大きく影響している。昨年夏より景気は悪かったようだ（飲料品）
- ・ 1月から前年度割れのところに新型コロナウイルスの影響で追い打ちを食らった感じ（飲料品）
- ・ 従業員への給与が発生するので売上が伸びても今一つ（菓子）
- ・ 売上高は新店効果により増加。また、2月下旬の新型コロナウイルスの影響により一時的と思われるが増加品目があった。資金繰りはキャッシュレス増加により悪化している（食料品）
- ・ 暖冬、新型コロナウイルスの影響により売上減少（燃料）
- ・ 少雪による案件の減少が顕著である（自動車用品）
- ・ 客数減少による売上減少（自動車用品）
- ・ 消費税増税後の受注の低迷による市場環境の停滞のため、大幅な減収・減益となった（自動車）
- ・ 消費税増税による反動や新型コロナウイルスの影響で売上が少々下降した（化粧品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で卒業式の縮小や送別会の中止で需要が落ち込んでいる（生花）

5 サービス業

- ・ 全く上昇運が見えない（新型コロナウイルスも関係している）（洗濯）
- ・ 新型コロナウイルスの影響でキャンセルが多く、売上が伸びない（美容）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で2月下旬頃からキャンセルが相次いで業績が悪化（旅館）
- ・ 前年、特殊要因で増加した分が通常に戻った状況である（情報サービス）
- ・ 新型コロナウイルスの影響によりイベント、講習会関係がすべてキャンセルされたため、売上減少（専門サービス）
- ・ 人手不足にフォローができた。新型コロナウイルスの影響は大きくはない（専門サービス）
- ・ 新型コロナウイルスの影響により2、3月の売上減少（広告）
- ・ 今年は暖冬の影響で雪が少なく、除雪業務がほとんど無い状態だった（ビルメンテナンス）
- ・ 年初は好天続きで良いスタートを切り、国内貨物も順調だったが、1月後半から中国国内での新型コロナウイルスの感染が拡大したため、物資が停滞し始め、2月、さらに3月は大幅な売上減少となった（運輸業）
- ・ 暖冬に加え、新型コロナウイルスの影響により、貸切・路線バスのキャンセルが続き、売上が減少、収益が悪化した（運輸業）
- ・ 公共工事が例年並に登録されており、売上及び採算も前年並（賃貸）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で2月下旬から予約が100%キャンセルされた（飲食店等）

Ⅱ 来期の見通し（2020年4-6月）

1 建 設 業

- ・ 期末に比較的大型工事を受注出来たが、来期の見通しはもう少し経過しないとわからないと思っている（総合工事）
- ・ 昔から景気が悪くなると公共事業が増加し、景気の呼び水になっていた。自然災害発生と共に来期も良いと思う（総合工事）
- ・ 新型コロナウイルスの影響が出てくるだろう（総合工事）
- ・ 民間の動きが鈍り、こういう事時こそ公共工事の早期発注が望まれる。いろいろな原因はあるが、新型コロナウイルスの件でこれからもっと悪くなるのではないかと（総合工事）
- ・ 新型コロナウイルスの影響による住宅機器の受発注の遅延で住宅建築ニーズの減少が懸念される（総合工事）
- ・ 採算は維持できる見込。受注工事額アップに傾注する（総合工事）

- ・ 大型工事の完成期となり、完成工事額は増加する見込である。採算面は不変を見込んでいる（総合工事）
- ・ 例年に比べ、来期完成する工事が多い（総合工事）
- ・ 来期は業況が悪化の見込（総合工事）
- ・ 来期は完成工事の予定はない。採算の取れる工事の予定はない（職別工事）
- ・ 見通し立たず（職別工事）
- ・ 経済の減速感、民間企業の低迷を見込む（職別工事）
- ・ 完成工事額の減少を見込む（職別工事）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で資材の納入が遅れることによる完成工事額の減少を見込む（設備工事）
- ・ 例年のことだが、5、6月はまだ予算が決まらず、社内で雑処理行なっている。発注があると忙しくなる（設備工事）
- ・ 新型コロナウイルスの影響がなければ今期より完成工事額が増えると思う（設備工事）
- ・ 工事材料の納期がより遅れそう。工期の延長による採算悪化を見込む（設備工事）
- ・ 工期延長によりこの期で竣工となる大型物件が数件ある。新型コロナウイルスの影響により、特に民間発注物件の停滞が懸念される（設備工事）

2 製造業

- ・ 時差出勤やテレワークの活用、不要不急の出張の自粛、お花見の中止や規模縮小、歓送迎会が相次ぎキャンセルされるなど家庭外での飲食の機会は減少したままである（飲料品）
- ・ 需要の増加を見込む（飲料品）
- ・ このままの状態が続くと生産、販売の見直し、従業員の雇用確保等も対策をしていく必要があると思われる（食料品）
- ・ 県外取引先の受注が見込まれない状況。前年同期比 30%の売上減少が見込まれる（食料品）
- ・ 新型コロナウイルス感染の終息が見通せず、ゴールデンウィークの予想も立たず、業況がさらに悪化する懸念あり（食料品）
- ・ 行楽の時期となるが、果たして花見をしようなどのムードになるのか？（水産物）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で新規受注が止まってきている（衣服）
- ・ 新型コロナウイルス感染に伴う各種イベントの中止・延期による印刷受注の減少が確実である（印刷業）
- ・ 新型コロナウイルスの影響が2、3ヶ月は続きそうだ（印刷業）
- ・ スポット案件（受注額の大きいもの）と現在計画を進めている新事業により、好転の見通し（印刷業）
- ・ 毎年春先は需要の停滞なのに加え、新型コロナウイルスの影響が未知数で恐ろしい（金属製品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響により設備投資が延期されられると思われる（金属製品）
- ・ 首都圏のオリンピック需要もほぼ終わり、再開発並びに中低層ビルの受注に切り替わる時期になるが、新型コロナウイルスの影響が少なからず出て来る可能性があると考え（金属製品）
- ・ 日中貿易摩擦と新型コロナウイルスの影響で先が見通せず（金属製品）
- ・ 前年同期比で売上減少を見込む。新型コロナウイルスとは関係ない（金属製品）
- ・ 5月までは仕掛けがあるが、6月以降は大型物件が少なくなる見通し。新型コロナウイルスの影響も予想できず（金属製品）
- ・ 4月からは少しずつ良くなる予定だが、今回の新型コロナウイルスの影響でどうなるか？（ゴム製品）

3 卸売業

- ・ 新型コロナウイルスの影響の予測がつかない（食料品）
- ・ 新型コロナウイルスの終息の見通しがつかないため苦慮している（食料品）
- ・ 今期と同様の状態が続く見込（水産物）
- ・ いつまで続くかが不明。先行き暗い（一般・事務機器等）
- ・ 4～9月は昨年と比べると落ち込むと思われる（一般・事務機器等）
- ・ 大手との競合のため、落札できないことによる売上減少を見込む（燃料）
- ・ 新型コロナウイルスが終息し、子供たちが動き回ることでお菓子の購買を期待したい（雑貨）
- ・ 新型コロナウイルスの影響を大きく受けそうな時期である（生花）
- ・ 引き続き新型コロナウイルスの影響で未曾有の売上減を見込む（物産）

- ・ 例年同様、需要の落ち込む時期と見ている（建設資材）

4 小 売 業

- ・ 4月以降についても少しずつでも良くなればと思うが、かなり不安である（時計）
- ・ 新型コロナウイルスの影響次第では売上悪化の可能性がある（スポーツ用品）
- ・ スタッフの時短、営業時間の短縮による売上額減少を見込んでおり、経費の節約を行う（身の回り品）
- ・ 現状では新型コロナウイルスの見通しが立つまでは厳しい状況が続くと思われる（身の回り品）
- ・ 来店者の減少が売上にも響いてくる（身の回り品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響による売上減少を見込む（カバン）
- ・ 著しい悪化を見込む（洋服）
- ・ 消費税率の変更の予想以上の悪影響と新型コロナウイルスの世界的な経済的脅威により、消費は縮む一方の様子。有効な手立てを現在の政権は打てるのか？（飲料品）
- ・ 飲食店、ホテル、各種イベントでの自粛傾向がどうなるかによる（飲料品）
- ・ 本業の他にもやる事があるので4、5月は定休日を増やす（菓子）
- ・ 新型コロナウイルスが終息しない限り見通しはわからない（食堂）
- ・ 外販が悪く、業務用が不振のため売上減少を見込む（食料品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で売上は若干増加しているものの、自社に感染者が出た場合、休業等余儀なくされる可能性もあり、危惧している（食料品）
- ・ 新型コロナウイルスの影響に対する経済対策に伴う景気動向に左右されられると思われる（食料品）
- ・ 景気減速の影響により売上減少を見込む（燃料）
- ・ 自動車の登録台数及び販売数減少と新型コロナウイルスの影響により、売上額減少を見込む（自動車用品）
- ・ 先行き不明（自動車用品）
- ・ 消費税増税後受注低迷に加え、競合他社との競争が激化し、販売単価の減少に加え、過度な値引き競争から収益確保が困難となり、大幅な減収・減益を見込む（自動車）
- ・ 売上減少は折り込み済み。どのように利益を確保するかが問題（家電）
- ・ 新型コロナウイルスの影響にもよるが徐々に回復する見通し（化粧品）
- ・ 新型コロナウイルス終息の見通しが見えないため、今後も回復の見込が薄い（生花）

5 サービス業

- ・ 新型コロナウイルスの影響による売上減少を見込む（洗濯）
- ・ 今期と同様と思う（洗濯）
- ・ 新型コロナウイルスが蔓延しており、新規予約が少なく見通しは非常に厳しい（旅館）
- ・ 新型コロナウイルスの影響が危惧されるが現状維持で堅調に推移すると見られる（情報サービス）
- ・ 大きな変動要因はない（情報サービス）
- ・ 販売先がホテル業界のため、新型コロナウイルスの影響が懸念される（情報サービス）
- ・ 新型コロナウイルスの影響でサプライチェーン（保守部品やサービス機器）が滞った場合、売上減少の可能性あり（情報サービス）
- ・ 見通しが立たない（専門サービス）
- ・ 昨年あった仕事が入らない予定である（専門サービス）
- ・ 新型コロナウイルスの影響で売上減少が続くと思われる（広告）
- ・ 現況の人手不足を見込む（ビルメンテナンス）
- ・ 昨年からの値上げのお願いをして、今年4月から期待をしているが、新型コロナウイルスの影響が消極的な返事しか返ってこない（ビルメンテナンス）
- ・ 国内の新型コロナウイルスの影響により各企業とも先行きを見通せない状況である。既に4月以降、減産を始めた企業もあり、今後さらに収益が悪化すると見込んでいる（運輸業）
- ・ 新型コロナウイルスの影響が払拭されるまでは悪化が続くものと予想する（運輸業）
- ・ 今期と同様を見込む（賃貸）
- ・ 新型コロナウイルスにより半減以上の売上減少を見込む（飲食店等）
- ・ 3～4月の予約が90%キャンセルされている（飲食店等）